

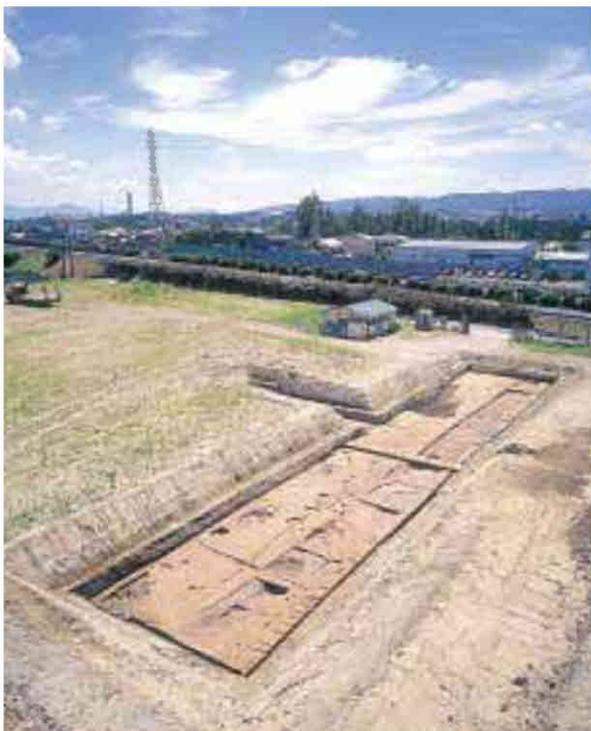
**平城京左京七条一坊十六坪の調査（平城第 372 次）**

碁盤の目のように区切られた平城京の地番は、朱雀大路を中心に東を左京、西を右京とし、東西・南北に通じる大路によって区切られた約 530 m 四方の区画を「坊」と呼びます。さらにその中を 16 の区画に区切り、これを「坪」と呼びました。今回の調査地は、左京七条一坊の十六坪、国道 24 号線奈良バイパス柏木町交差点の南東にあたります。今からちょうど 10 年前の 1994 年におこなった第 251 ～ 255 次の各調査で、約 130 m 四方にわたるこの十六坪のほぼ四分の三を発掘しています。今回はこのときに調査できなかった坪西半の中央部を 6 月 7 日から 7 月 23 日にかけて調査しました。

検出した奈良時代の主な遺構には、調査区の北辺で東西 45 m 分を検出した幅約 1.7 m の素掘溝 1 条、溝の南に沿うかたちでつくられた東西塀 3 条や、掘立柱建物などがあります。この東西溝は、東側の調査区においても確認されており、ちょうど坪を南北に二分する位置にあることから、地割溝であった可能性が指摘されています。

今回の調査は、市街地化のすすむ平城京跡にあって、一つの坪のほぼ全体を調査することのできた数少ない例といえます。従前の成果と合わせて、平城京内の土地利用のありかたを検討することが調査後の課題です。

（平城宮跡発掘調査部 次山 淳）



調査区全景（北東から）